

## 2. 管内で発生した雛の起立不能

青森県八戸家畜保健衛生所

○荻野心太郎、方波見将人



### 【はじめに】

肉用鶏及び種鶏を飼養する農場（飼養羽数：肉用鶏6,000羽、種鶏1,000羽、開放鶏舎16棟）において、鶏脳脊髄炎（以下、AE）が強く疑われた雛の起立不能が発生したので、その概要について報告する。

### 【立入調査】

平成27年10月27日、農場の管理者から、「13日齢の肉用鶏の雛に起立不能がみられ、淘汰羽数が増加している」との通報があった。調査の結果、起立不能は肉用鶏舎、種鶏舎を除く6育雛鶏舎中1鶏舎で発生し、475羽中約50羽が斜め座り、横臥等の起立不能を呈していた。なお、雛の死亡は確認されず、鳥インフルエンザ簡易検査は陰性であった。

### 【病性鑑定】

起立不能を呈した5羽について病性鑑定を実施した。その結果、剖検では著変は認められず、細菌学的検査で有意菌は分離されなかった。また、ウイルス学的検査では、起立不能を呈する雛からウイルスは分離されず、遺伝子も検出されなかった。なお、病理組織学的検査では、全検体において、中脳、橋及び延髄の大型神経細胞の中心性色質融解がみられ、大脳、中脳、橋及び延髄では軽度の囲管性単核系細胞浸潤が認められた。また、心臓では5羽中3羽において、肝臓では5羽中2羽において、リンパ球の集簇及びリンパ濾胞の形成がみられた。

### 【疫学調査】

当該農場では、4日齢から起立不能による淘汰が実施され、15日齢の72羽をピークに、23日齢までに計257羽が淘汰された。また、発症雛群の1週前後に孵化した雛には異常は認められず、種鶏には84日齢でAEワクチンが接種されていた。なお、過去に同一農場で採材した血清も含めてAEウイルス抗体検査を実施したが、採材時期及び抗体の保有状況からは、移行、感染抗体又はワクチン抗体の種類は分からなかった。

### 【結果及びまとめ】

病性鑑定においてAEウイルス遺伝子は検出されなかったが、本症例は特徴的な臨床症状及び病理組織学的所見から、AEが強く疑われた。感染経路については種鶏からの介卵感染、育雛鶏舎への外部環境からのウイルス侵入が考えられたが、感染経路の特定には至らなかった。なお、種鶏への適切なワクチン投与等、飼育方法の改善について指導した結果、再発はみられていない。